

# 調 査 速 報

## 日本海スケトウダラ資源調査結果 ——計量魚探——

北海道立総合研究機構中央水産試験場(0135-23-7451)・稚内水産試験場(0162-32-7177)

函館水産試験場(0138-57-5998)

ホームページアドレス

[http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/central/kanri/NEWS/SUKESO/suke\\_gyotan.html](http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/central/kanri/NEWS/SUKESO/suke_gyotan.html)

- ・ 全体の産卵群分布量は 2010 年の 9 割に減少
- ・ 北部, 南部海域とも 2010 年の 9 割に減少
- ・ 石狩湾と檜山海域で 2010 年の 7 割に減少
- ・ 岩内湾では 2010 年度の 1.2 倍に増加
- ・ 各海域とも尾叉長 40cm 前後の 2006 年級と思われる魚が主体

道総研水産試験場で実施したスケトウダラ計量魚探調査結果をお知らせします。

### 1. 調査海域と期間

- ・調査期間: 2011(平成23)年10月13日から10月24日
- ・調査海域: 水深200mより深い海域(図1)
- ・試験調査船: 北洋丸(計量魚探, 着底トロール)  
金星丸(計量魚探, 着底トロール)

### 2. 調査結果

#### 【魚群分布】

- ・海域全体の産卵群分布量は、2010年の9割程度に減少しました。
- ・積丹半島以北海域の産卵群分布量は2010年の9割程度に減少しました(図2, 4)。この海域では、留萌沖から武蔵堆周辺の分布量が比較的多い結果でした。魚体サイズは尾叉長40cm前後の2006年級と思われる魚が主体でした(図3)。
- ・石狩湾海域では、2010年の7割程度まで減少しました。一方、岩内湾海域では1.2倍に増加しました。この海域でも尾叉長40cm前後の成魚が中心でした。
- ・檜山海域では2010年と同様に本道沿岸域で少なく、概ね2008~09年と同じような分布状況でした。分布量は2010年の7割程度に減少しました。サイズは尾叉長40~50cm程度と、他の海域より大きい魚の割合が高く、成魚が中心でした。乙部沖における分布深度のピークは、2010年と同じ390~400mとやや深くなっていました(図5)。

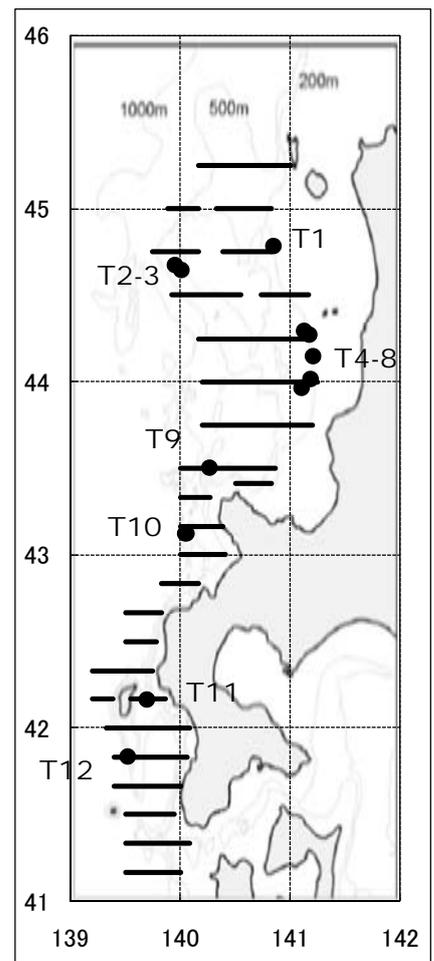


図1 調査海域

直線は魚探調査ライン

●(T1~T12)はトロール調査点。

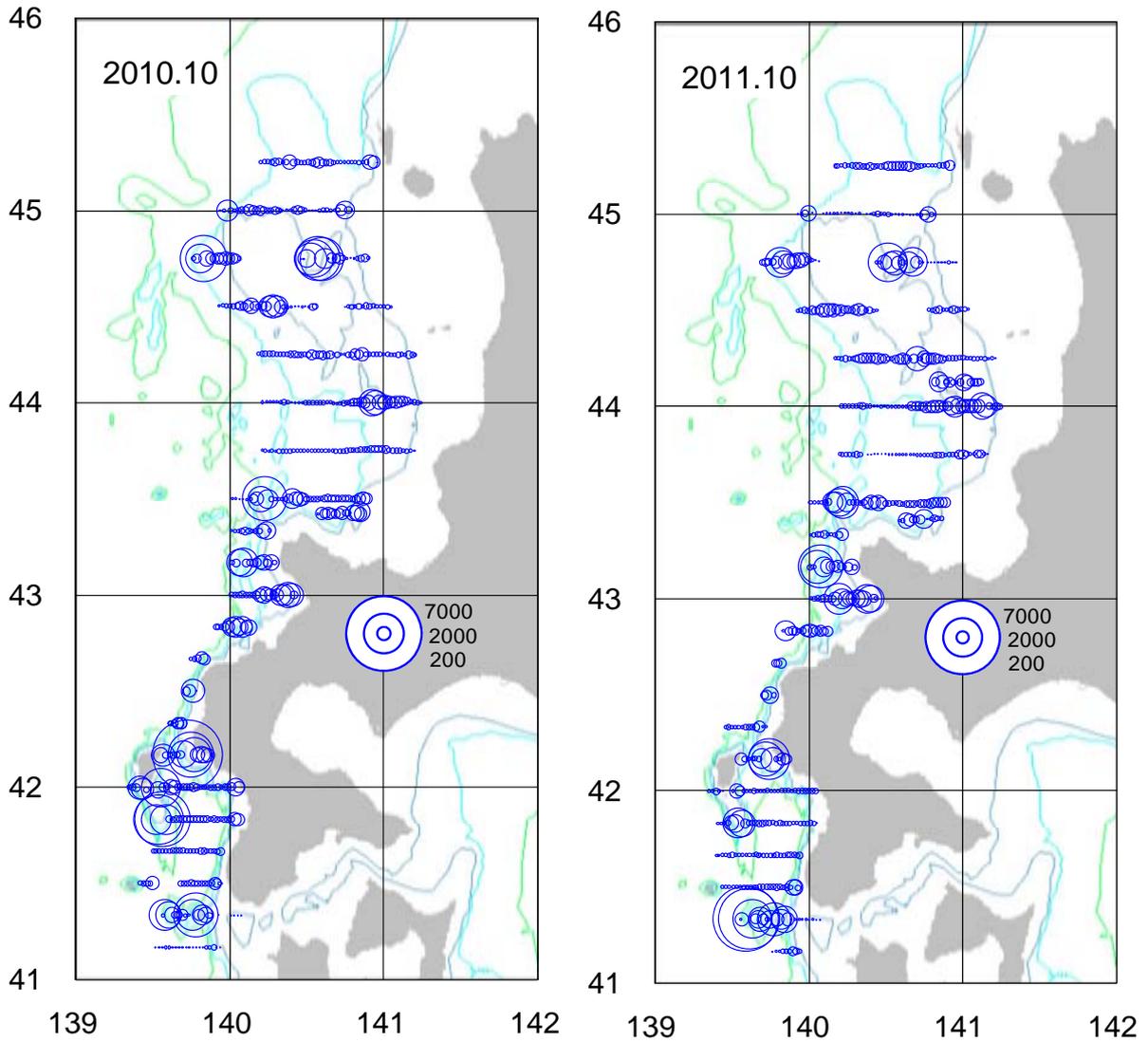


図2 スケットウダラ分布図(魚探反応量), 左:2010年, 右:2011年  
 円の大きさは, スケットウダラの反応の強さを示す。

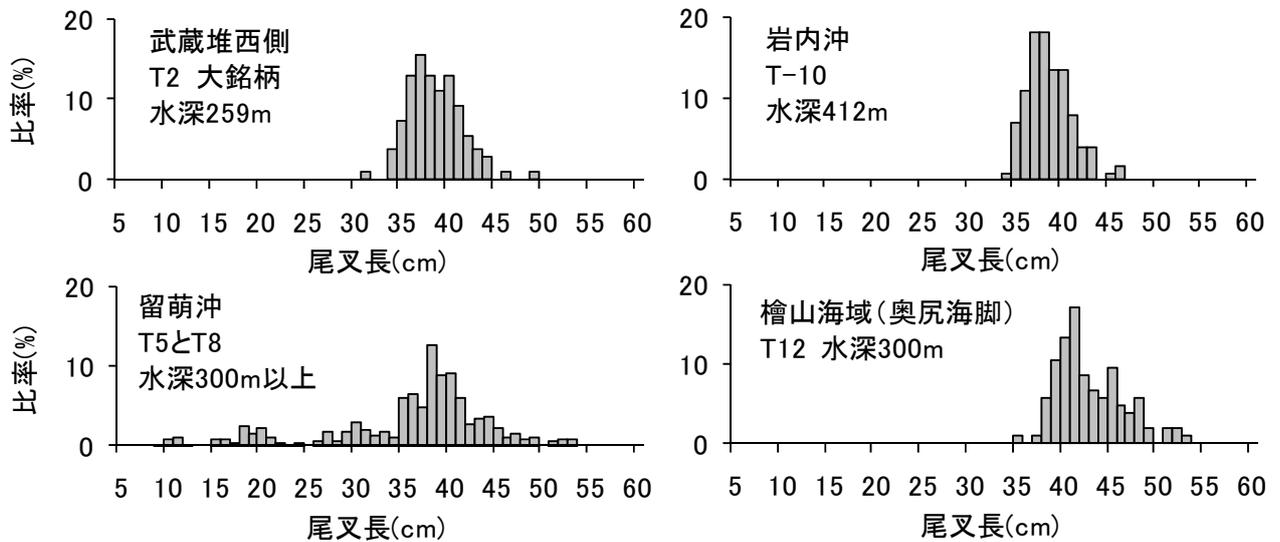
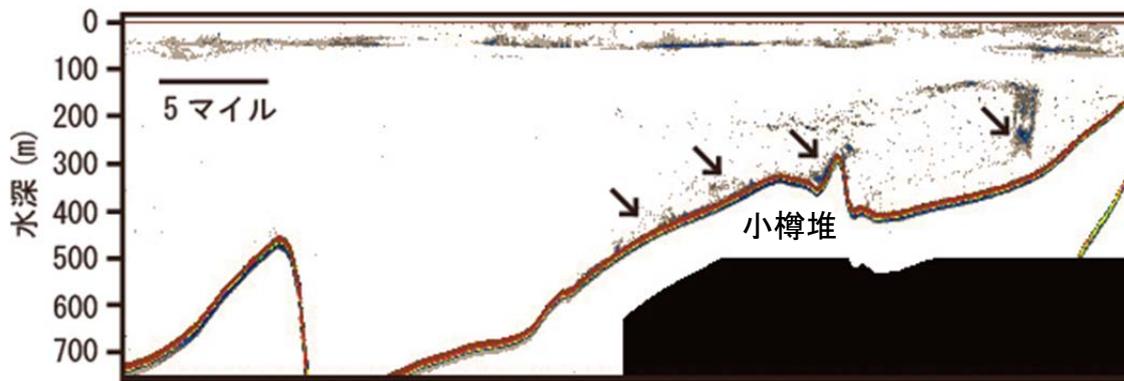
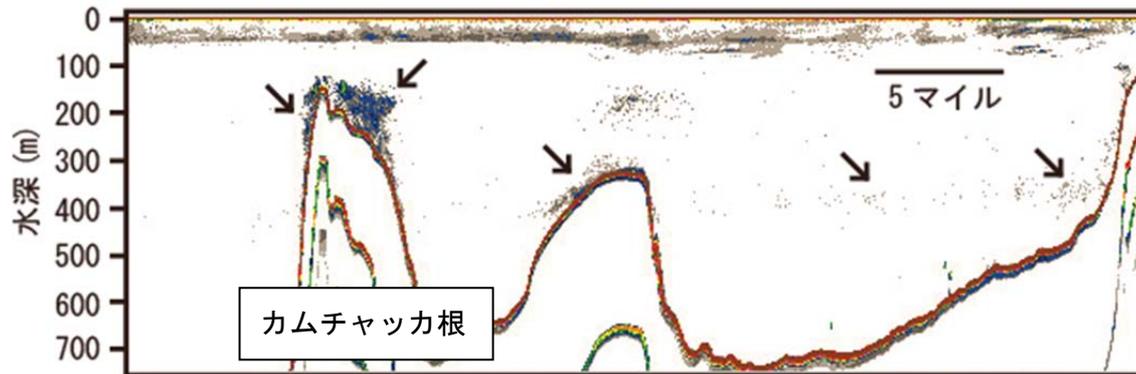


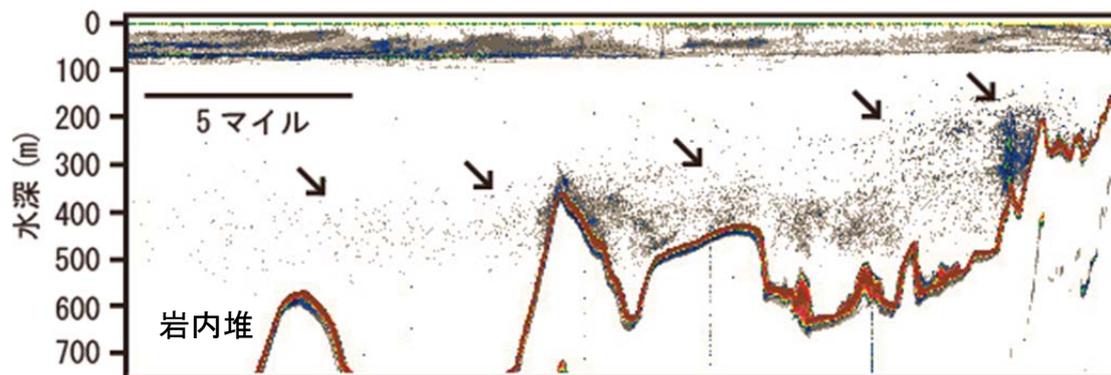
図3 トロール調査で採集されたスケットウダラの体長(尾叉長)  
 トロール地点は図1に示した。



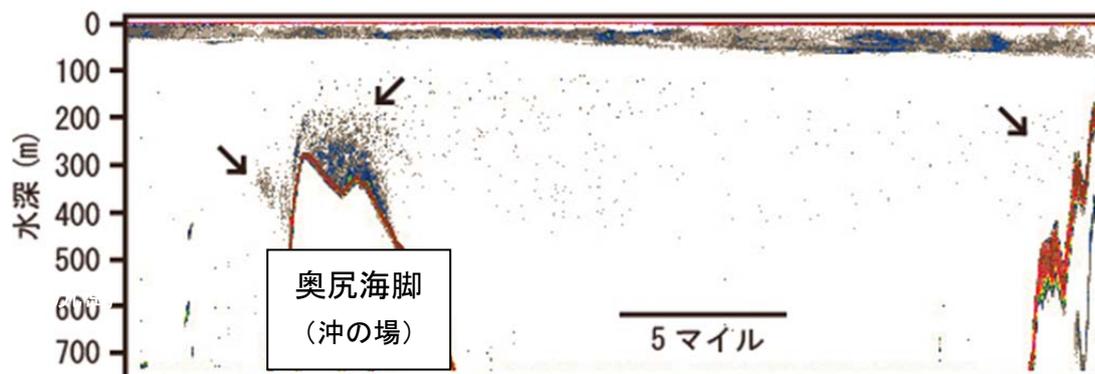
武蔵堆南部～小樽堆 北緯 44 度ライン(西→東)



石狩湾 北緯 43 度 30 分ライン(西→東)



岩内湾 北緯 43 度ライン(西→東)



檜山海域 北緯 42 度ライン(西→東)

図4 スケトウダラの魚探反応図  
矢印はスケトウダラと考えられる反応。

## 【水温環境】

100m 層水温は、2010 年と同様に北部海域で高く、南部海域で低い結果でした(図 6)。奥尻島周辺は水温 5℃以下となっていました。

### 3. 産卵群の来遊状況と漁況

調査海域全体の分布量は約 8 万トンと、2010 年(約 9 万トン)の 9 割程度とやや減少しました(図 7)。2011 年も前年に引き続き 2006 年級(5 歳魚)が主体と考えられます。一方、サイズは前年より一回り大きくなっていることから、海域によっては漁獲量が 2010 年より増加する可能性があります。

しかし、漁獲物調査などの結果からみて 2006 年級より後に豊度の高い年級がでていないと考えられるため、「**2006 年級をじょうずに取り残して、次の産卵につなげることが大事です!**」

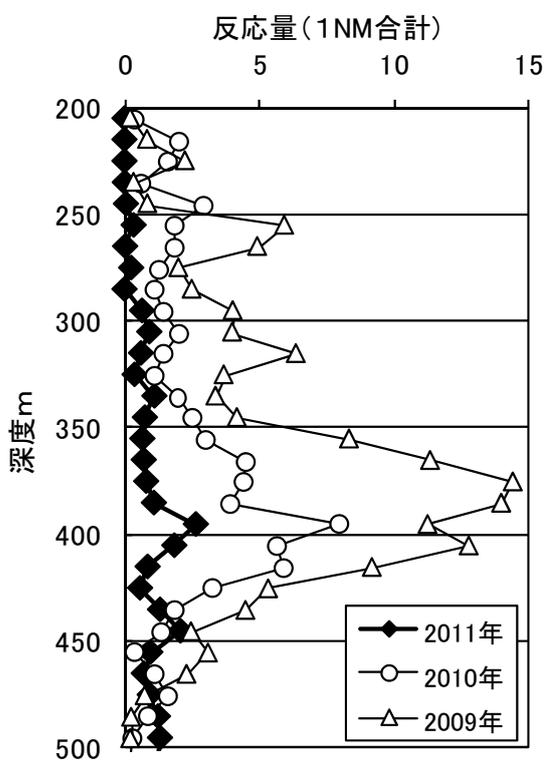


図5 檜山海域(乙部沖)におけるスケトウダラの分布深度

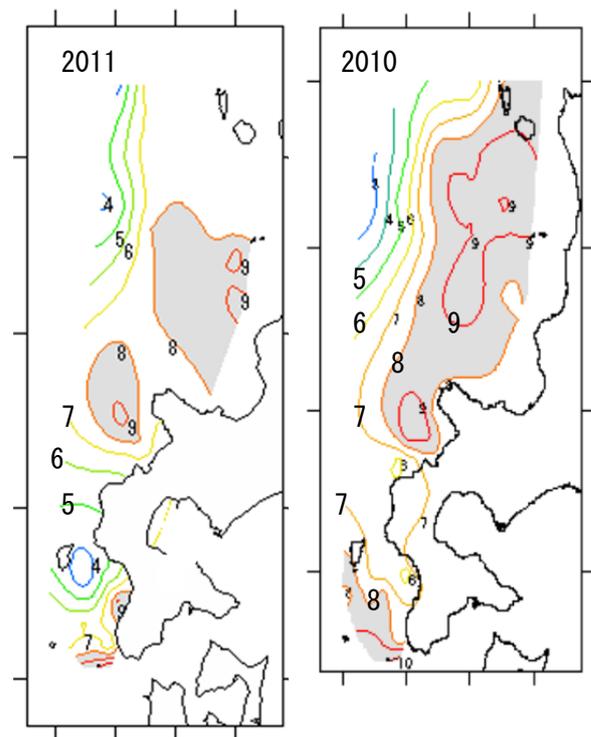


図6 道西日本海 100m 層水温分布図(数字は水温, 塗りつぶした範囲は水温 8℃以上)

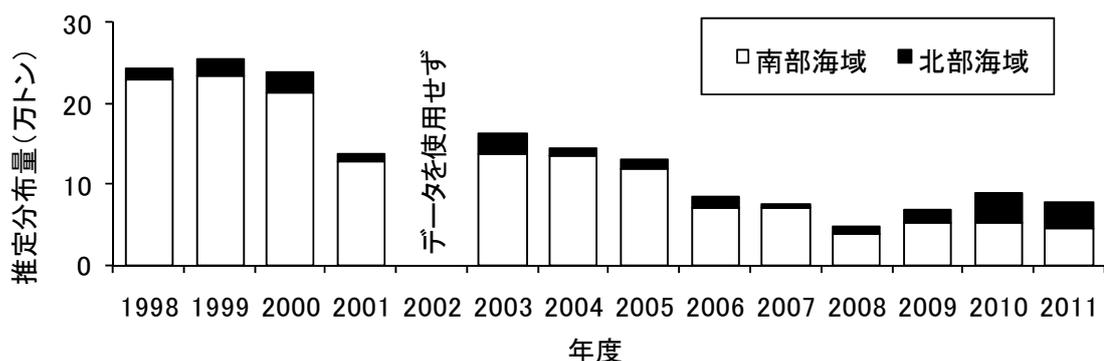


図7 スケトウダラ分布量(北部と南部海域の境界は北緯 43 度 30 分)